

## 卒業される皆さんへ



武庫川女子大学  
武庫川女子大学短期大学部  
学長 瀬口和義

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。保護者の皆様におかれましては、本学の教育にご理解をいただき、ご息女の教育を本学に託してくださいましたことに対し感謝いたしますとともに、ご息女のご卒業に衷心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、皆さんとご家族の健康・安全を最優先に考え、また感染拡大を防ぐ観点から、大変遺憾ではありますが、今年度の卒業証書・学位記授与の式典は中止といたしました。

卒業証書・学位記の授与式は学生から社会人となる人生の大きな節目として、一生の記憶に残る1ページであることは言うまでもありません。皆さんが本学で体得したものが、一層の研鑽を積むことにより、実体として自他ともに認識されることを願い、式典で予定しておりました学長式辞に替え、皆さんにお祝いのメッセージをお贈りいたします。

本学は、わが国の女子大学・短期大学のなかで、教育・研究の水準、教育環境、規模において屈指の高い水準にあります。武庫川学院は今年度節目の創立80年にあたり、創立90年、さらにその先を目指し新たなスタートを切りました。皆さんはそのスタートの最初の卒業生ということになります。

本学院は、創立以来数多くの試練を経験しましたが、初代学院長・校祖 公江喜市郎先生、第2代学院長・日下晃先生、現学院長・大河原量先生の優れたリーダーシップのもとに、教職員、学生、保護者の方々、そして卒業生が心を合わせ、協力し合い、困難を克服し発展してきました。

今年度教育学部を開設したのに続き、この4月には食物栄養科学部、建築学部、経営学部、建築学研究科が開設され、大学は10学部17学科、短期大学部7学科、大学院7研究科となります。皆さんはこのように発展し続けている本学を卒業することに大きな自信と誇りを持ってください。

今から60年前、校祖 公江先生は卒業生に次のように話されました。「家庭も社会も国家も、その社会構成の半ばを占める女性がよくならなくては、立派になりえない。今日の時代においては、実際に役立つ人間を育てることが必要である。」この公江先生の言葉は半世紀以上たった今を予見されているようです。今日、日本は女性活躍の時代を迎えています。令和という新元号のもとで女性が進出・活躍できる企業、分野やポストが間違いなく加速度的に増大していきます。また働き方も多様になっていくでしょう。こういう変革の時代であるからこそ、皆さんは立学の精神にうたわれる「高い知性」「善美な情操」「高雅な徳性」を自分自身のもとして本学を卒業して、その後も研鑽を続けながら社会で活躍するのです。

本学は2011年に教育推進宣言をしました。その宣言は「立学の精神」に基づき、社会に貢献できる女性の育成を目指す「教育目標」の実現のため、「自立した学生を社会に送り出すため、主体性・論理性・実行力を培う女子教育に教職員一丸となって取り組みます」というものです。

ここでいう自立を目指す人、自立した人とは、独善的ではなく、他の人に役立つために、自分のあり方を自ら考え、その考えに基づいて行動している人です。自分の責任において、自らの意志と行動力で自らの道を切り拓き、個性輝く女性となることができる人です。このような理想の女性を現実のものにすることを目指し、令和の幕開けとなる2019年5月に創立100周年へ向けたMUKOJO Vision「一生を描ききる女性力を(育む)」を国内外に公表しました。

本日、卒業される皆さんは、全員、武庫川学院の同窓会である鳴松会の会員になります。鳴松会の会員は今や19万人に達し、立学の精神を胸に、社会や家庭にあって、お互いに手を取り合い、人々に支援の手を差し伸べ、自立した個性豊かな女性として活躍しています。皆さんの自立の道にいざなう光は、19万人のすべての先輩によって全国で、また世界各地で灯され続けています。

本日、卒業される皆さんの進路はさまざまでしょう。しかし、共通することは、社会は皆さんを社会的に独り立ちした人とみなすということです。皆さんはこれから新たな試練に立ち向かうでしょう。乗り越えられないような大きな試練もあるかもしれません。そんなときはいつでも母校をお訪ねください。母校は皆さんの輝かしい足跡とかけがえない思い出が詰まっているところです。皆さん、今日で学生時代は終わりますが、いつまでも青春の輝きを持ち続けてください。武庫川学院創立80年の節目の卒業生として、本学の伝統を受け継ぎながらも、個性を存分に生かして、新しい時代、女性活躍の時代のスタートを切ってください。

皆さんのご卒業をお祝いし、保護者、ご家族の皆様の本学の教育へのご理解とお力添えに感謝し、皆さんのご健勝、ご活躍、ご多幸をお祈りしお祝いのメッセージといたします。

令和2年3月